

2019. 10. 20 第3主日あかし礼拝

マルコ 9:14-24 「私をあわれんでください」

## 聖書

14 さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。

15 群衆はみな、すぐにイエスを見つけると非常に驚き、駆け寄って来てあいさつをした。

16 イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を論じ合っているのですか」とお尋ねになった。

17 すると群衆の一人が答えた。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、あなたのところ連れて来ました。

18 その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」

19 イエスは彼らに言われた。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」

20 そこで、人々はその子をイエスのもとに連れて来た。イエスを見ると、霊がすぐ彼に引きつけを起こさせたので、彼は地面に倒れ、泡を吹きながら転げ回った。

21 イエスは父親にお尋ねになった。「この子にこのようなことが起こるようになってから、どのくらいたちますか。」父親は答えた。「幼い時からです。

22 霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。」

23 イエスは言われた。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

24 するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

## はじめに

「あなたが気づけばマナーが変わる」ということばを聞いたことがあるでしょう。2004年から始まった日本たばこ産業（JT）のマナー広告です。「たばこを持つ手は子どもの顔の高さだった。」「700度の火を持って私は人とすれ違っている。」など全部で77の広告があります。昨今は喫煙に対して意識が変わってきたので、たばこを持ちながら歩く人はずいぶん減っていると思いますが、こうした広告は私たちが知らず知らずのうちに当たり前前に思っていることに気づきを与えてくれるもので、それによって自分の姿を客観的に見るができるのです。裏を返せば、私たちは自分のことは自分ではわからないということではないでしょうか。誰かによって、または何かによって、自分というものを知らされることがあるなら、それを大切にしなければいけないのだと思います。それで今日の聖書箇所から、自分に対する新たな気づきが与えられたら幸いです。

## 1. 事の次第

イエスさまは弟子のペテロとヨハネとヤコブだけを連れて山に登られました。すると、イエスさまはこの世のものとは思えないほどの白さで輝き、御姿が変わりました。そこに旧約のエリヤとモーセが現れ、雲の中から「これはわたしの愛する子、彼の言うことを聞け。」（マルコ 9:7）という天からの声が聞こえてきました。3人の弟子たちは恐怖に包まれたのですが、あたりを見回すとそこにはイエスさまだけで他には誰もいなかったのです。

こんな不思議な経験をした3人の弟子たちがイエスさまと一緒に山を下りて来たときのことです。ふもとで大勢の群衆が他の弟子たちを囲んで、律法学者たちと論じ合っていました。イエスさまが「何を論じ合っているのですか」と尋ねると、群衆の一人が「先生、口をきけなくする霊につかれた私の息子を、あなたのところに連れて来ました。…あなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」（17, 18節）と、息子の癒しの問題で議論していると打ち明けます。

この場面で、イエスさまは息子を連れて来た父親に目を向けました。父親の持っていた意識に触れることで、霊を追い出せなかった弟子たちに気づきを与えているのです。では、イエスさまは父親の何を問題とされたのでしょうか。

## 2. 父親の深い苦悩

父親は息子のことで深く悩んでいました。息子の状態をこう言っています。「霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。」(18 節)「霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。」(22 節)と、父親はどうしてよいのか分からず、困り果ててイエスさまのところに連れて来たことを明かします。それは「幼い時からです。」(21 節)と言っているように、長くこの問題に悩まされてきたのです。

問題の深刻さと時間の長さは人を絶望に追いやって行くに十分な理由となります。もう出口はないのではないかと失望・絶望へと追いやります。人はそのような失望や絶望の中に長く置かれ続けると、心がぎゅっと硬くなり、どんどん周りが見えなくなり、自分一人がこの世から取り残されて行くような閉塞感に支配されてしまいます。この父親もきっとそうだったと思います。「幼い時からです。」というひと言に、人間の深い苦悩を見る思いです。人が抱える深い苦悩は、ただ人を苦しめるだけなのでしょうか。他の意味はないのでしょうか。

確かに、問題を抱えることは辛いことですが、その問題が私たちをある方向に導くことも確かです。聖書に次のようなことばがあります。「私たちは四方八方から苦しめられていますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。」(Ⅱコリント 4:8,9)。ノックダウンされることはあってもノックアウトされることはないということです。ここには何度でも立ち上がることができるという希望があります。その理由は「私たちは、この宝を土の器の中に入れてあります。それは、この測り知れな

い力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。」(Ⅱコリント 4:7)と、キリストの力が土の器である弱い私たちの内に働く機会となるからです。問題を抱えることが、キリストの力を知る機会になるとすれば、そこに活路を見出すことで前を向けるのではないでしょう。

### 3. 父親の気づき

この父親は何度もノックダウンしたことでしょう。しかし立ち上がりイエスさまならこの問題を何とかしてくださるかもしれないと、イエスさまに目を向けたのです。父親が目を問題から離し、イエスさまに向けたところは偉いと思います。目を問題からイエスさまに移すことに私たちも倣いたいです。

ところが、イエスさまはそれでよしとはなさいませんでした。父親の発したひと言に問題の本質を見抜かれたからです。父親は自分の発したことばの重大な欠陥に気づいていませんでした。父親はイエスさまに向かって「しかし、おできになるなら、私たちをあわれんで助けてください。」(22 節)と言いました。前訳の第三版は「ただ、もし、おできになるものなら」と訳しています。「しかし」あるいは「もし」と言っているように、父親にはイエスさまに対する 100%の信頼はなかったのです。「しかし」あるいは「もし」とは、謙遜を表すための「しかし」「もし」ではなく、不信の「しかし」であり「もし」なのです。ですから、イエスさまは父親のことばを受けて「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」(23 節)と、息子の問題は父親であるあなた自身の信仰の問題なのだと言われたのです。このイエスさまの指摘で父親は自分の不信仰に気づきました。「信じます。不信仰な私を助けてください。」(24 節)と告白しています。息子の癒しのためにイエスさまのところに連れて来たのに、実は私の問題だったのだと気づいたのです。この気づきを与えてくださるのが聖霊なる神さまですが、この気づきが、人が変わっていくための第一歩なのです。そして聖霊は私たちをキリストの下に導くために、様々な機会を通して気づきを与えるべく働かれるのです。時に試練や災いの中から語られることもあります。聞く耳を持って

歩む者に主の声は届くのです。

## 結び

1800年代のスイスの哲学者フレデリック・アミエルは「心が変われば行動が変わる／行動が変われば習慣が変わる／習慣が変われば人格が変わる／人格が変われば運命が変わる／運命が変われば人生が変わる」ということばを残しました。まとめれば、心が変われば人生が変わるということです。そして、今日これに「気づきがあるなら心が変わる。」を加えたらどうでしょうか。「心が変われば」という出発点に立つために、聖霊なる神さまは私たちに気づきを与えてくださるのです。

その気づきの最も重要なものが、「不信仰な私をお助けください」という姿勢です。イエスさまを信じて一步を踏み出すことに躊躇している方がおられたら、信じて踏み出してみましよう。従うことに曖昧な態度で生きてきたら、一つで良いので従ってみましよう。たくさん願っても中途半端になるだけです。一つで良いので、イエスさまに期待して踏み出してみましよう。イエスさまは十字架について、私たちの罪のために死んでくださいました。それは私たちが滅びることのないように心底私たちを愛しておられるからです。その愛を感じて生きることができる者になりたいと思います。私たちが愛しておられるイエスさまをもっと知ることができますように。イエスさまに愛されていることを感じて生きることができるように、イエスさまの愛を求めましよう。「あなたが気づけばマナーが変わる」と似たことばに「あなたが変われば世界が変わる」ということばがあります。私たちがイエスさまに対する理解が変われば、私たちの心が変わり、私たちの人生が変わり、私たちの周りの世界が変わっていく。イエスさまの愛に気づくこと、それが人生の変貌に不可欠なのです。今日もイエスさまは十字架から流れる血潮をもって、私たちが愛しているというメッセージを注ぎ続けておられます。それを受け取るか否か、その答えは今日ここにいる私たち一人一人に委ねられています。